

2月15日～2月21日 商品検査実績（検査中のものは除く）

- 微生物検査 181検体
 - ・検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 47検体

食品添加物検査	8検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	コープ・ラボに5検体依頼しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	今週は実施していません。	
PCR検査	畜種判別検査	6検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	遺伝子組換え食品（大豆）検査	今週は実施していません。
	米のDNA異種米判定	2検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
米鮮度判定	今週は実施していません。	
産地判別検査	今週は実施していません。	
卵鮮度判定	今週は実施していません。	
アレルゲン検査	16検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
ヒスタミン検査	10検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施していません。	
放射性物質検査（スペクトロメータ※）	今週は実施していません。	

※NaI シンチレーションスペクトロメータ：^{しゃへいたい}遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

品質保証室で実施している商品検査についてお知らせします

・米鮮度判定検査

お米に含まれる主要成分のうち、タンパク質やでん粉よりも、脂質は分解が速く進みます。このことから、品質劣化の指標として脂肪酸度の測定が用いられます。脂肪酸が増えるとpHの低下を引き起こすため、pH指示薬を用いて鮮度劣化した米が混ざっていないかを確認しています。



赤色のpH指示薬を入れた試験管にお米を入れて混ぜ合わせます。



pH指示薬の色が緑色になると鮮度劣化していませんが、赤色からあまり変化しないと鮮度劣化しています。